

## 2 事業方針

### (1) 事業企画の重点

#### 生命、宇宙など未知の自然へのアプローチ

生命科学、宇宙科学、ナノテクノロジーなど、自然科学の最先端技術を提示することにより、自然の叡智（自然のすばらしいしくみ）に触れ、その偉大さを体感し、自然と共存することの重要性を深く再認識する。

#### 自然と共にある暮らしの喜び

自然の一部であるという人間の原点に立ち、衣・食・住、文化、生活環境等様々な面において、豊かで幸せな自然との調和を提唱する。

#### 環境負荷の低い社会、循環型社会のモデル

地球環境問題に対応して、3R（リデュース・リユース・リサイクル）システム、会場におけるゼロエミッションを目指した取り組み、新エネルギーシステムの実践的導入を検討する。

また、CO<sub>2</sub>の削減にも取り組む。

#### ITの徹底した実用化と新たな実験

会場運営、展示・催事、交通アクセスの円滑化など様々な分野で、インターネット、携帯情報端末技術、ブロードバンド時代に対応した映像情報技術をはじめとした情報関連技術の徹底した実用化を図るとともに、バーチャル・リアリティなどの最先端技術の実験を行う。

#### 楽しく魅力的な高齢社会のモデル

高齢社会が現実のものとなる21世紀において、高齢者が楽しく生き甲斐をもって生活できる社会のモデルを、諸外国の経験も踏まえ、バリアフリーに配慮しつつ、ハード・ソフト両面から追求する。

長い人生経験で培った生活の知恵が後世へ受け継がれていくような世代間交流の場も設置する。

#### 世界各国の文化・文明の対話

地球温暖化など地球規模での問題の発生は、世界の人々に地球は一つという意識を益々強く抱かせるに至っている。国際博覧会の最大の特長である世界中の様々な国民・民族・文化の集結・交流の必要性は益々高まっている。愛知万博は、互いの文化の違いを認め合いつつ、地球規模の環境を意識し、人類の叡智を結集して未来に備えるまたとない機会である。できるだけ多くの国々・国際機関の参加を求め、文化・文明の交流を図る。

## ( 2 ) 事業実施の重点

### 楽しさ、おもしろさの演出

展示・催事は多くの場合教育性・文化性を柱とするが、実際に経験することの価値の高まりを踏まえ、非日常性、まつり性による盛り上げ、もてなし・おもしろさ、楽しさの経験などの魅力づくりをする。そのためには、展示・催事のみならず、営業活動についても高い洗練性や魅力を備えたものとする。

また、昼間とは趣を異にした夜間開催時の楽しみと魅力の仕掛けを創造する。

### 多様な形態による参加

かけがえのない地球を未来に引き継ぐためには、今地球に生きる市民一人ひとりが自ら地球市民としての自覚を持ち、広く連帯し、考え、行動していくことが必要である。

また、21世紀の社会活動における新たな主役となりつつある市民・NPO/NGOに対して、博覧会の計画策定に関する意見提案、会場運営への協力、展示・催事の企画運営等への参加を促し、また、様々な活動成果の情報発信の場を提供する。

企業・団体・自治体の参加についても、パビリオン出展のみでなく、協会企画事業参加、最先端技術提供協力や催事参加など多彩な参加システムを推進する。

### 広域連携のネットワーク構築

万博の開催前の各方面の様々な事前イベントを推奨し、または開催中においては開催会場以外の地域においても自治体・企業・市民団体等、幅広い広域連携のネットワークをつくり、これらを総合して来場者の満足度と万博による活性化効果を最大にする。

### 中部地域の発展と技術力の活用

中部地域は日本のものづくりの中心地として発展してきたが、その高い技術力は今後、宇宙・生命・情報・資源・エネルギー・環境問題などのあらゆる分野で、また新しい生活文化においても、世界に大きく貢献することが予想される。

万博での果敢な挑戦を通じて、中部地域が世界への発信力を強め、世界的な交流を深め、産業面ばかりではなく、文化面においても新しい発展の契機となるよう、中部地域の潜在的な力を十分に発揮させる。

### (3) 環境配慮の考え方

本博覧会では開催期間の前後を通じ、会場計画を始め、会場運営、観客輸送等の各方面において環境への配慮を行うと共に、様々な活動や事業を通じ、地球規模で進む環境問題に対する解決の方向性を発信していく。

#### 環境影響評価の実施

博覧会を実施するにあたっての環境影響評価については、経済産業省要領に基づき適切に実施し、環境負荷の低減に努める。

#### 自然地形・素材の活用

会場計画・建設にあたっては、既存の平場を活用することを基本とし、自然環境への最大限の配慮をし、環境負荷の少ない会場づくりを目指す。また、木、竹、土等の自然素材の活用を図る。

#### 循環型技術の導入を検討

循環型社会の構築を目指す本博覧会において、新エネルギー、省エネルギー、リサイクル技術の先進的な導入を目指す。水利用設備の計画にあたっては、雨水利用による上水使用量の削減などを図る。廃棄物処理設備の計画にあたっては、発生抑制や分別の徹底を行った上で、会場内においては生ごみを有効利用するしくみを検討する。

#### 3Rを目指した建設・運営

土木構造物や施設を構成する材料の選択にあたっては、リユース、リサイクル可能な素材を積極的に活用するなど建築素材等の3R（リデュース・リユース・リサイクル）及び会場におけるゼロエミッションを目指した取り組み、運営等を実行する。

#### 公共交通利用の促進

来場者の会場への来訪については、鉄道等の公共交通機関への積極的な誘導により、CO<sub>2</sub>等の削減に努める。

#### 楽しみながら学ぶ機会の提供

展示・催事では、地球環境問題などの世界的な課題などについて、楽しみながら学び・考える機会を提供する。

来場者・参加者一人ひとりが環境について考え、楽しみながらゼロエミッションに取り組む「EXPOルール」(協会作成)の導入を検討する。

## (4) 事業コンセプト

### 「自然の叡智」を巡る多様な知恵と文化を持ち寄る 『地球大交流』

#### 文化・文明の多様性を体験・共感

国や国際機関の幅広い参加はもちろんのこと、地球規模での活動を展開するNPO/NGOや企業及び市民など、地球社会の多様な構成員の参加で、文化・文明の多様性の意味と価値を体感できる博覧会とする。

#### 地球規模でのムーブメント（運動）を創出

愛知万博のテーマと関連する国際的な活動との連携や、世界各国の有識者からなる国際諮問委員会によるテーマの深化と新しい万博運動への貢献プログラムを積極的に展開して、愛知万博から発信する地球規模でのムーブメント（運動）を創出する。

#### 産・学・官と市民の共同事業による新たな社会実験の場

人類と地球の持続可能な共生に向け、地球社会や地域社会などの多彩な社会実験に挑戦する場として、産・学・官と市民の共同事業によるプロジェクトを積極的に推進する。また、国や各種研究機関が推進する各種プロジェクトや実証試験も積極的に取り入れる。

#### 参加体験楽習（ラーニング・エキスぺリエンス）の機会と場を多彩に創造

愛知万博は、「もの」だけでなく「こと」が溢れ、単に「見る」だけではなく、「参加・体験」することの楽しさを徹底的に追求する。特に、次代を担い、これからの地球社会を生きる青少年に向けて、素晴らしい地球市民になるための参加体験楽習（ラーニング・エキスぺリエンス）の機会を充実させる。

#### 日本の文化観光交流立国への歩みを加速

愛知万博を契機に日本中、世界中から訪れる観光客に対し、愛知万博のテーマと連動した交流の場や、中部地域の特色であるものづくりを多彩に楽しむ産業文化観光など、自然、歴史文化など地域の特色を生かした観光プログラムの充実を図る。日本の文化観光交流立国への歩みを愛知万博の開催と連関させて加速させる。